

へりくだる(謙遜)

シリーズ・十字架

何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

＜フィリピ2:3～9

＞

何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスに倣われるものです。



キリストは、神の身分ありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を

何事も、自分の利益と名誉のために行い、少しでも人より優れた、重要な人物となる。そのためには他人のことなどに関心を払ってはならない。

# 聖書の人生哲学

- <動機> 利己心や虚栄心からではなく
  - 「利己心」: 人に物を贈って自分の味方・手下を作ろうとすること。野心、対抗心
- <関心> 自分ではなく他人に
- <意識> 人を自分より重要だと考える
  - 「優れた」: 重要である、立派である、価値がある、大切である

# 聖書の人生哲学

- <動機> 利己心や虚栄心からではなく
  - 「利己心」は、自分や自分の方・手下を優先する
- <態度> 謙遜
- <意識> 謙遜である
  - 「優れた」・「立派な」である、価値がある、大切である

へりくだる  
(謙遜)

## キリストに見る積極的な謙遜

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

# キリストに見る積極的な謙遜

## 1. 神であることを捨てる

「神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず」

## 2. 人間になる

「かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。」

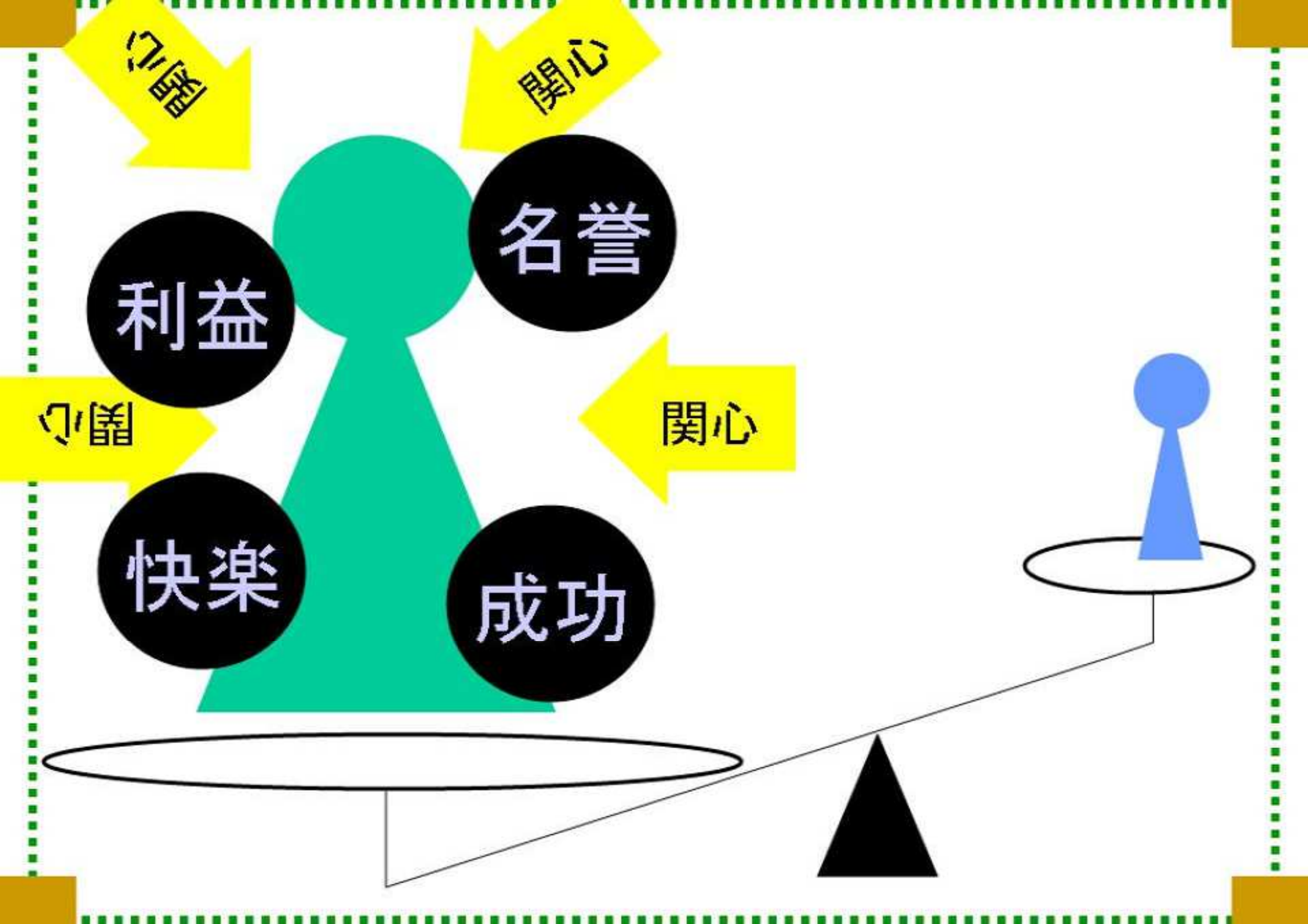
## 3. 十字架にかかって死ぬ

「死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」

# キリストに見る模範

- <動機> 自分の利益や栄光を求めず、むしろ損をし卑しめられることを願う
- <関心> 100%自分自身にはない
- <意識> 私たちの方が大切であり、価値がある、と考えた
  - 私たちを生かすために、十字架で、身代わりとなって神の怒りを受けて下さった





關心

關心

利益

名譽

關心

關心

快樂

成功

# へりくだる

